

# Bibliography

[Rud] W. Rudin. *Functional analysis*. 2nd edn. International Series in Pure and Applied Mathematics. McGraw-Hill, Inc., New York. (1991.)

[NO] J. Noguchi, T.Ochiai *Geometric Function Theory in Several Complex Variables* Translations of Mathematical Monographs Volume: 80; 1990; 282 pp

<sup>NO</sup> [NO, Chapter 3] を参考にしている。

## 0.1 Current

$M$  2nd countable 次元  $C^\infty$  級多様体とする。

Recall  $M \subset \mathbb{R}^m$  の時  $C^\infty(M)$  には次の位相を次で入れていた。

$K_1 \subset K_2 \subset \dots \subset M$  というコンパクト集合であって

$$K_i \subset K_{i+1}^\circ \quad \text{and} \quad M = \bigcup K_i^\circ$$

となるものを一つ固定し,  $f \in C^\infty(M)$  について,  $N \in \mathbb{Z}_+$  として

$$P_N(f) := \max\{|D^\alpha f(x)| \mid |\alpha| \leq N \& x \in K_N\}$$

$$V_N := \max\{f \in C^\infty(M) \mid P_N(f) < \frac{1}{N}\}$$

を 0 の open base とするような位相を入れていた。

$K \subset M$  コンパクトに対して

$$\mathcal{D}_K(M) := \{\phi \in C^\infty(M) \mid \text{Supp}(\phi) \subset K\} \subset C^\infty(M)$$

に対して相対位相を入れて

$$\mathcal{D}(M) := \bigcup_{K \subset M \mid K \text{ cpt}} \mathcal{D}_K(M) \cong \varinjlim_K \mathcal{D}_K(M)$$

この colimit は locally convex vector space での colimit である.

lem-E-1

**Lemma 0.1.1.** 1.  $U, U' \subset \mathbb{R}^m$  を開集合とする.  $U \cong U'$  を微分同相とする時,  $C^\infty(U) \cong C^\infty(U')$  である. ここでこの同型は位相  $\mathbb{C}$  ベクトル空間の同型である  
2.  $M \subset \mathbb{R}^m$  開集合とし,  $M = \bigcup U_i$  を可算個の開被覆とする時

$$C^\infty(M) \hookrightarrow \prod C^\infty(U_i) \quad f \mapsto \{f|_{U_i}\}$$

とすると,  $C^\infty(M)$  の位相はこの直積位相  $\prod C^\infty(U_i)$  によって引き起こされる位相となる. 特に

$$C^\infty(M) \cong \text{Eq}(\prod C^\infty(U_i) \Rightarrow \prod C^\infty(U_i \cap U_j))$$

という位相  $\mathbb{C}$  ベクトル空間の同型を得る.

*Proof.* (1). 以下  $K_1 \subset K_2 \subset \dots \subset U$  というコンパクト集合で  $C^\infty(U)$  の位相を誘導するものを一つ固定する.  $\Phi : U' \rightarrow U, (x_1, \dots, x_m) \mapsto (y_1, \dots, y_m)$  を微分同相写像とする. すると  $K'_i := \Phi(K_i)$  によって,  $C^\infty(U')$  の位相を誘導する.  $V_N, V'_N$  を上の通りとする.

さてその引き戻し

$$\Phi^* : C^\infty(U) \rightarrow C^\infty(U') \quad f(y) \mapsto f \circ \Phi(x) = f(y(x))$$

が位相  $\mathbb{C}$  ベクトル空間の同型を誘導することを示す.

$f \in C^\infty(U)$  について chain rule より,  $|\alpha| \leq N'$  について

$$D_x^\alpha f \circ \Phi(x) := \sum_{|\beta| \leq N'} (D_y^\beta f)(y(x)) \cdot \Phi_{\alpha\beta}(x) \quad (0.1.1)$$

である.

$\Phi$  が 0 の近傍で連続であることを示せば良い. 任意の  $N'$  について,  $K_{N'}$  コンパクトなので,  $K_{N'}$  上では  $|\Phi_{\alpha\beta}(x)| \leq C_{N'}$  となる  $C_{N'}$  が取れる. よって  $N' \cdot \frac{1}{N} \cdots C_{N'} < \frac{1}{N'}$  となる  $N$  をとれば,  $f \circ \Phi \in \Phi^*(V_N)$  について

$$|D_x^\alpha f \circ \Phi(x)| \stackrel{\substack{\text{引} \leftarrow \text{lem} \leftarrow \text{E-1} \\ (0.1.1)}}{<} \underbrace{|(D_y^\beta f)(y(x))|}_{|\beta| \leq N' < \frac{1}{N}} \cdot |\Phi_{\alpha\beta}(x)| \leq N' \cdot \frac{1}{N} \cdot C_{N'} < \frac{1}{N}$$

よって「任意の  $N' > 0$  について, ある  $N > 0$  があって,  $\Phi^*(V_N) \subset V'_{N'}$  である」ため  $\Phi$  は 0 の近傍で連続である.

(2)  $M = \bigcup_{i=1}^\infty U_i$  とする. 各  $U_i$  で

$$K_{i1} \subset K_{i2} \subset \dots \subset U_i$$

で  $U_i = \bigcup_j K_{ij}^\circ$  となるコンパクト列をとる。そこで  $K_N := \bigcup_{i=1}^N K_{i,N}$  とすると

$$K_1 \subset K_2 \subset \cdots \subset M$$

であって、 $K_i \subset K_{i+1}^\circ$  かつ  $M = \bigcup K_i^\circ$  となる。

さて  $\prod C^\infty(U_i)$  の 0 での local base は

$$\{V_{\mathbf{i}, \mathbf{N}} := V_{i_1, N_{i_1}} \times V_{i_2, N_{i_2}} \times \cdots \times V_{i_l, N_{i_l}} \times \prod_{i \neq i_k} C^\infty(U_i) \mid i_1 < i_2 < \cdots < i_l, N_{i_k} \in \mathbb{Z}_+\}$$

となる形のものである。ここで

- $\mathbf{i} := (i_1, i_2, \dots, i_l), \mathbf{N} := (N_{i_1}, N_{i_2}, \dots, N_{i_l})$  と定める。
- $V_{\mathbf{i}, \mathbf{N}} := \{f \in C^\infty(U_i) \mid P_N(f) < \frac{1}{N}\}$  である（この定義での  $P_N(f)$  には  $K_{i,N}$  をつかう。）

一方で  $V_N := \{f \in C^\infty(M) \mid P_N(f) < \frac{1}{N}\}$ （この定義での  $P_N(f)$  には  $K_{i,N}$  をつかう。）であり、これは  $C^\infty(M)$  の 0 での local base である。以上より、次の二つを示せば良い。

- 任意の  $\mathbf{i}, \mathbf{N}$  について、ある  $N$  があって、 $V_N \subset V_{\mathbf{i}, \mathbf{N}} \cap C^\infty(M)$  が成り立つ。
- 任意の  $N$  について、ある  $\mathbf{i}, \mathbf{N}$  があって、 $V_N \supset V_{\mathbf{i}, \mathbf{N}} \cap C^\infty(M)$  が成り立つ。

$$\begin{aligned} V_N &:= \left\{ f \in C^\infty(M) \mid x \in K_N := \bigcup_{i=1}^N K_{i,N}, |\alpha| \leq N, |D_\alpha f(x)| < \frac{1}{N} \right\} \\ &\stackrel{\text{def}}{=} \left( V_{1,N} \times V_{2,N} \times \cdots \times V_{N,N} \times \prod_{i>N} C^\infty(U_i) \right) \cap C^\infty(M) \\ &\stackrel{\text{def}}{=} V_{(1,2,\dots,N),(N,\dots,N)} \cap C^\infty(M) \end{aligned}$$

である。これより二つ目の主張が正しいことがいえる。一つ目の主張は任意の  $\mathbf{i}, \mathbf{N}$  について、

$$V_{\max\{\mathbf{i}, \mathbf{N}\}} \subset V_{\mathbf{i}, \mathbf{N}} \cap C^\infty(M)$$

なので言える。 □

defn-E-2

**Definition 0.1.2.**  $M$  2nd countablem 次元  $C^\infty$  級多様体とする。 $C^\infty(M)$  に位相を次のように入れる。

まず  $M = \bigcup_{i=1}^{\infty} U_i$  で  $U_i \subset \mathbb{R}^m$  となる countable open cover を一つ固定する. そして,

$$C^\infty(M) \hookrightarrow \prod_i C^\infty(U_i) \quad f \mapsto (f|_{U_i})$$

による部分位相を  $C^\infty(M)$  に入れる. つまり,

$$C^\infty(M) \cong \text{Eq}(\prod C^\infty(U_i) \rightrightarrows \prod C^\infty(U_i \cap U_j))$$

となるように入る.

*Remark 0.1.3.*  $\text{Defn-E-2}$  による位相の定義において,  $U_i$  の取り方によらない.

*Proof.* 別の  $U'_j$  をとると細分  $U_i \cap U'_j$  が取れる. よって次の図式が考えられる.

$$\begin{array}{ccccc} C^\infty(M) & \xhookrightarrow{\quad} & \prod C^\infty(U_i) & \xhookleftarrow{\quad} & \\ \searrow & & \swarrow & & \\ & \prod C^\infty(U'_j) & \xhookrightarrow{\quad} & \prod C^\infty(U_i \cap U'_j) & \end{array}$$

そこで”相対位相の直積は相対位相になる”ので,  $\text{Defn-E-1}$  より言える.  $\square$

これにより

$$C^\infty : (U \underset{\text{open}}{\subset} M) \mapsto C^\infty(U)$$

は  $\mathbb{C}$  ベクトル空間の sheaf となる. よって  $K \subset M$  に対して

$$\mathcal{D}_K(M) := \{\phi \in C^\infty(M) \mid \text{Supp}(\phi) \subset K\}$$

として  $C^\infty(M)$  の部分位相を入れる.

$$\mathcal{D}(M) := \bigcup_{K \subset M | K \text{ cpt}} \mathcal{D}_K(M) \cong \varinjlim_K \mathcal{D}_K(M)$$

この colimit は locally convex vector space での colimit である.

[指摘] この colim は存在する? やっぱり Section 1 でやったような位相の入れ方にもう一回戻る?  
 $\varinjlim_K \mathcal{D}_K(M)$  については次回再考.